

推薦します!

出口治明

立命館アジア太平洋大学 (APU) 学長
子どもの貧困は、わが国最大の課題の1つだ。私たちは「自分事」としてこの問題に立ち向かわなくてはならない。子どもは私たちの未来なのだから。

荻上チキ

評論家

あなたは誤った「貧困イメージ」を受け取っていないか。自己点検のためにも、そして教育や議論のためにも、大きな礎となってくれるシリーズだ。

宮本みち子

放送大学・千葉大学名誉教授

子どもの貧困問題を議論する枠組みを与える力強いシリーズ。「失われた20年」に進行したこの国の貧困化を直視し、子どもへの貧困への取り組みで社会を変えよう。

湯浅誠

社会活動家・法政大学教授

「子どもの貧困」は、知られているようで、知られていない。だからこそこのシリーズによって、芯の通った国民的理解が広がることを望む。

秋田喜代美

東京大学教授

子どもや家族、社会のために、課題と同時に希望を示す灯になるにちがいない。わが国が直面している課題を根源的に問う、子どものための貧困研究の集大成。

子どもと かかわる すべての 人に

子どもの貧困の

再発見から10年。

この10年間の

政策・実践・研究を

批判的に検討し、

子どもの貧困を議論する

枠組みを提供する。

新・スタンダードの誕生!



シリーズ 子どもの貧困

全5巻

[シリーズ編集代表] 松本伊智朗 (北海道大学教授)

刊行予定 ● 2019年3月より順次刊行
仕様 ● A5判/並製/各巻平均300頁
定価 ● 2,500円+税

推薦します! 出口治明/荻上チキ/宮本みち子/湯浅誠/秋田喜代美

明石書店



シリーズ 子どもの貧困 全5巻

シリーズ編集代表 松本伊智朗 (北海道大学教授)

2019年3月より順次刊行

① 生まれ・育つ基盤 子どもの貧困と家族・社会	松本伊智朗・湯澤直美 [編著] ISBN 978-4-7503-4789-9 2500円+税	冊
② 遊び・育ち・経験 子どもの世界を守る	小西祐馬・川田学 [編著] ISBN 978-4-7503-4806-3 2500円+税	冊
③ 教える・学ぶ 教育に何ができるか	佐々木宏・鳥山まどか [編著] ISBN 978-4-7503-4790-5 2500円+税	冊
④ 大人になる・社会をつくる 若者の貧困と学校・労働・家族	杉田真衣・谷口由希子 [編著] ISBN 978-4-7503-4807-0 2500円+税	冊
⑤ 支える・つながる 地域・自治体・国の役割と社会保障	山野良一・湯澤直美 [編著] ISBN 978-4-7503-4808-7 2500円+税	冊

申込書

団体名 _____
 学校名 _____
 お名前 _____
 ご住所 〒 _____
 お電話 () _____ FAX () _____
 メールアドレス _____

ご注文方法

◎最寄りの書店へ、このチラシをご持参の上、ご注文ください。
◎直送をご希望の方は、電話またはFAXにて弊社へお申し込みください。代金引き換え郵便にてお送りいたします。代金は配達の方にお支払いください。書籍代(本体価格+消費税)に加え、送料として一律300円かかります。

ご注文数

セット

明石書店

〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
URL=http://www.akashi.co.jp/
E-mail=eigyo@akashi.co.jp
●図書目録送呈

書店番線印

シリーズ特色

● 経済的問題から離れない。
経済的困窮を基底において
貧困を把握する。

● 社会問題としての貧困と
いう観点をとる。個人的問
題にしない。

● 貧困問題を分断しない。
子どもの貧困は、貧困の理
解と対策を広げることばで
ある。

● 反貧困としての「脱市場」
と「脱家族」の観点をとる。

● 子ども期の発達・社会的
特徴と関係させて構成する。

● 支援の現場・研究の最前
線の執筆者、総勢60名によ
る書き下ろし。

シリーズ—子どもの貧困③

教える・学ぶ 教育に何ができるか

【編著】佐々木宏・鳥山まどか

子どもの貧困への政策的対応で大きな役割を与えられている「教育」について批判的に検討し、同時にその可能性について探る。近代の公教育は、社会的不利の緩和と固定化という両義的な側面をもつが、現下の対策では、その点に無自覚なものが多い。本巻の議論は、この点を克服する試みでもある。

序章 「子どもの貧困ブーム」をふりかえって 【佐々木宏・広島大学】

第一部 〈教育〉化する「子どもの貧困」政策の再検討

第1章 「子どもの貧困」再考 【堅田香緒里・法政大学】

第2章 生活保護世帯の子どもの教育支援
—教育 Learn +福祉 welfare =ラーンフエア Learnfare

【桜井啓太・名古屋国立大学】

第3章 障害のある子どもの貧困と教育 【丸山啓史・京都教育大学】

第4章 外国につながる子どもの貧困と教育 【新藤慶・群馬大学】

第二部 教育と「お金」

第5章 家計の中の教育費 【鳥山まどか・北海道大学】

第6章 教育の市場化は子どもの貧困対策となるか
【篠原岳司・北海道大学】

第7章 教育費の家庭依存を支える日本人の意識
【中澤渉・大阪大学】

第三部 教える・学ぶの「現場」から

第8章 子どもの貧困と教師 【盛満弥生・宮崎大学】

第9章 「学校以前」を直視する—学校現場で見える子どもの貧困と
ソーシャルワーク 【金澤ますみ・桃山学院大学】

第10章 学習支援は何を変えるのか—その限界と可能性
【西牧たかね・調布市学習支援コーディネーター】

第11章 株式会社は子どもの貧困解決のために何ができるか
【岡本美希・株式会社 L-T-A-L-I-C-O】

第12章 貧困問題を教える授業の現場から
—「他人事としての貧困」という壁 【佐々木宏】

【鳥山まどか】

【鳥山まどか】

シリーズ—子どもの貧困①

生まれ、育つ基盤 子どもの貧困と家族・社会

【編著】松本伊智朗・湯澤直美

子どもが生をうけたこの社会は、そもそも生活の安定的基盤が確保されている社会なのか。子育て・ケアの主体として期待されてきた家族という単位は、どのように理解されるべきなのか。主に貧困とケアの観点から、現在の社会と家族の特徴を描き、子どもの貧困を生み出す構造を把握する。

はじめに—本巻の構成

【松本伊智朗・北海道大学／湯澤直美・立教大学】

序章 なぜ、どのように、子どもの貧困を問題にするのか【松本伊智朗】

第一部 子どもが生まれてくる社会

第1章 生活の基盤は安定しているか(1)—雇用・労働、賃金

【川村雅則・北海学園大学】

第2章 生活の基盤は安定しているか(2)—所得・社会保障

【山内太郎・札幌国際大学短期大学部】

第3章 子どもの育ちを支える保育士の現状
—保育労働の変容もたらすもの【小尾晴美・名古屋国立大学】

第4章 子どもをケアする時間の格差
【大石亜希子・千葉大学】

第二部 子育ての場としての家族

第5章 近代家族の特質と女性の隠れた貧困【丸山里美・立命館大学】

第6章 ひとり親世帯の貧困—所得と時間【鳥山まどか・北海道大学】

第7章 妊娠・出産と貧困 【鈴木佳代・愛知学院大学】

第8章 貧困と虐待・ネグレクト—国家と家族と子育てと
【杉山春・ルポライター】

第9章 家庭教育の意味すること
—個人／家族／国家の関係を考える【辻智子・北海道大学】

第三部 子どもの貧困対策と社会

第10章 指標から見る子どもの貧困 【阿部彰・首都大学東京】

第11章 子どもの貧困をめぐる報道と社会意識
【中塚久美子・朝日新聞記者】

第12章 子どもの「声」と子どもの貧困—子どもの権利の視点から
【長瀬正子・佛教大学】

【本巻の貧困探し】のわな—あとがきにかえて
【松本伊智朗】

シリーズ—子どもの貧困④

大人になる・社会をつくる 若者の貧困と学校・労働・家族

【編著】杉田真衣・谷口由希子

「子どもの貧困」と「若者の貧困」のそれぞれの議論の架橋を試みる。単に子ども期の不利が移行を困難にするという点のみならず、今日の若年層が直面する構造的不利が子どもの貧困とどう関係するのか、若者が自己の人生と社会をつくる主体として生きることをどう保障するのか、議論がなされる。

はじめに—本巻の主題と構成／若者への視座 【杉田真衣】

第一部 子ども期の貧困と若者期を考える視点(総論)

第1章 学校を離れる—「進路」の形成と学校・若者支援
【杉田真衣・首都大学東京】

第2章 仕事をして暮らす—労働と社会保障
【橋口昌治・エキタス京都】

第3章 依存できない家族・家族形成の不利
【谷口由希子・名古屋国立大学】

第二部 子ども期の貧困と「大人になることの困難」の かたち(各論)

第4章 生活保護世帯の子どもの大学進学—制度的に作られた負担
【林明子・大妻女子大学】

第5章 ひきこもりと社会参加の課題—子どもと家族を取りまく
【川北稔・愛知教育大学】

第6章 貧困と複合的不利—社会的養護と「自立支援」
【尾代通子・シーズ南平岸ホーム長】

第7章 障害とともに生きる若者
【新藤すえ・立正大学】

第三部 つながる・発言する・人生と社会をつくる

第8章 社会的養護と当事者活動
【永野咲・日本女子大学】

第9章 主体としての若者
【谷口由希子】

【谷口由希子】

【谷口由希子】

【谷口由希子】

シリーズ—子どもの貧困②

遊び・育ち・経験 子どもの世界を守る

【編著】小西祐馬・川田学

子どもの貧困の議論を構成するうえで初めて「遊び」を位置づける野心的な試み。子どもの発達にとって「遊び」は重要な要素であるが、これまで正面から取り上げられることはなかった。本巻ではこの間隙を埋めながら、育つ／育てる営みを総体として理解し、子どもの貧困の議論を豊富化する。

序章 子どもの世界を中心としての遊び 【川田学・北海道大学】

第一部 遊びと経験の意味

第1章 貧困と子どもの経験—子どもの視点から考える
【大澤真平・札幌学院大学】

第2章 多様な子どもを包摂するあそびの可能性
【塩崎美穂・日本福祉大学】

第3章 遊び心が奪われるということ—障がいと貧困の重なり
【赤木和重・神戸大学】

第二部 子どもの世界を守る実践

第4章 遊びと育ちを支える保育実践
【山岡真由美・名古屋国立保育園園長】

第5章 みんなが気持ちいい児童保育
【長谷川佳代子・埼玉わらしべの里共同保育所】

第6章 やはり、授業がブレイフルであること
【石川晋・授業づくりネットワーク】

第7章 多世代多様な場の可能性—地域子育て支援の実践
【小林真司・札幌ねっこぼっこいえ】

第8章 放課後の地域の居場所から考える【山下智也・宮崎国際大学】

第三部 育ちの基盤を支える

第9章 子どもの健康と貧困【佐藤洋一・和歌山生協も診療所所長】

第10章 基盤としての子育て
【若田美香・法政大学】

第11章 貧困対策における保育の再定位に向けて
【萩原久美子・下関国立大学】

終章 家族だけでは「子どもの世界」は守れない(保障できない)
【小西祐馬・長崎大学】

シリーズ—子どもの貧困⑤

支える・つながる 地域・自治体・国の役割と社会保障

【編著】山野良一・湯澤直美

政策実践課題としての子どもの貧困に対する対応策が、ナショナルミニマムの確保とソーシャルワークの展開という観点から示される。子どもの貧困への対応策の議論は、個別的、事後的対応のみに矮小化される危険をもつが、ここでは全体の枠組みを示したうえで、自治体レベルでの対応の可能性を検討する。

序章 はじめに—本巻の主題と構成 【山野良一・沖縄大学】

第一部 社会保障と子どもの貧困

第1章 子どもの貧困と「社会手当」の有効性：防貧政策としての
児童手当制度 【北明美・福井県立大学】

第2章 福祉の論理から見た子どもの貧困と生活保障
【岡部卓／三宅雄大・首都大学東京】

第3章 子どもの健康状態と医療保障を考える
【寺内順子・大阪社協】

第4章 子どもの貧困と住まい【葛西リサ・大阪市立大学特別研究員】

第二部 ソーシャルワークの展開

第5章 子どもの居場所づくりとその実践(1)
—戦後から高度成長期を中心に
【加藤彰彦・沖縄大学名誉教授】

第6章 子どもの居場所づくりとその実践(2)
—高度成長期以降の流れ
【幸重忠孝・幸重社会福祉事務所】

第7章 医療現場で子どもの貧困にどう気づきどう支援するか
—医療面からのソーシャルワーク 【和田浩・健和会病院】

第8章 子ども虐待と社会的養護をめぐるソーシャルワーク
【川松亮・子どもの虹情報研修センター】

第三部 国・自治体における子どもの貧困対策

第9章 子どもの貧困と基礎自治体施策を考える
【山野良一】

第10章 子どもの貧困対策の生成と展開
【湯澤直美・立教大学】

【湯澤直美】

【湯澤直美】

【湯澤直美】